

1. 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>九州大学農学部生物資源環境学科は、生物生産、生物機能、生物環境等に関連する学問諸分野において、国際的に通用する専門性と技術を有するばかりでなく、豊かな課題探究能力とバランス感覚を備えた多様な人材の育成を目指して、教育研究活動を展開している。このような教育の目的に則り、以下の教育目標を達成した者に、学士（農学）の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生物・化学・物理の基礎的知識を身につけ、その応用力を修得すること。 ◆ 自然科学、特に専攻する分野に関する感性を高め、諸問題の解決能力を身につけること。 ◆ 研究者、実務者としての能力を育成し、多様な分野で活躍できる専門職業人としての基礎的能力を育むこと。 <p>特に、森林資源の持続的生産・利用と人類の生存及び環境修復に寄与する専門的知識と社会的要請への対応能力を習得させるために必要となる授業科目を、自然科学から社会科学に跨がる学問の基礎及び応用の視点から体系的に編成し、各教育分野の分担・連携の下、地球森林科学に関する総合的な教育を行っている。</p> <p>具体的には、次の学修目標の達成に向けた学位プログラムを提供している。</p>
参照基準	<p>日本学術会議分野別参照基準『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準-農学分野』2015年 を参照。 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h151009.pdf</p>
学修目標	<p>A. 主体的な学び・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> • （主体的な学び）深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。 • 環境に関する意識を高め、地球森林科学における幅広い学問分野に関心を有する。 • （協働）多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。 • （コミュニケーション）文章表現能力、口頭発表能力、及び討議力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を発信、吸収できる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理能力、コミュニケーション能力を涵養し、自分の考えを正しく表現できる。 <p>B. 知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生物学・化学・物理学・数学・経済学に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 ・ 森林科学・林産科学の様々な現象を理解し、説明できる。 ・ 上記の知識を統合し、学際的知識を理解し、説明できる。 <p>C. 技能</p> <p>C-1. 専門的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数式を業務に必要なレベルで解析、処理できる。 ・ 生物学・化学・物理学に基づき、実験を業務に必要なレベルで理解し、正しく行える。 ・ フィールド調査を必要なレベルで理解し、実践できる ・ 計算や実験やフィールド調査の結果を評価し、自分の考えを正しく表現できる。 ・ 専門分野の内容を深く理解し、その知識を利用することができる。 <p>C-2. 統合・創造能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識を統合し、問題解決に利用することができる。 ・ 国際的、学際的知識を研究、開発に応用できる。 ・ 問題点を見出し、その解決策を考えることができる。 <p>D. 実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学の方法と論理的思考方法を身につけ、実践できる。 ・ 複眼的な視点を有し、多様な問題解決法を考えることができる。 ・ 国際的、学際的な知識を社会に還元する意欲を有する。
--	--

2. 新カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（サイバーセキュリティ基礎論）、教養としての言語運用能の習得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、専攻教育を通して英語力習得を目指す科目（専門英語）、専攻教育につながる基礎的知識と様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン、理系ディシプリン）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合、高年次基幹教育）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A）」を培う。そのうえで、学科必修科目、プログラム必修科目及び選択科目、

大学院連携科目をして、以下の通り、学修目標の達成に向けた学修を進める。

コース共通の必修科目として農学入門Ⅰ、Ⅱを1年生で履修し、農学全体の概要を理解する。共通基礎科目（生物化学Ⅰ、Ⅱ、有機化学Ⅰ、農学入門等）に加え、基幹教育理系ディシプリン科目（情報科学、基礎物理学ⅠA、ⅠB、線形代数、微分積分学、無機物質化学、有機物質化学、基礎化学結合論、基礎生物有機化学、集団生物学、基礎生化学、細胞生物学、生態系の科学、分子生物学等）の履修によって、専攻教育の基礎知識を修得する。2年生3Q 4Qにおいては、森林の構造・機能、管理、木質科学に関する専攻科目（森林生態学Ⅰ、Ⅱ、木質科学、材料物理化学Ⅰ、Ⅱ、環境地学Ⅰ、Ⅱ、木質構造力学Ⅰ、Ⅱ、森林環境社会学・経営学等）を履修することで、専門分野の基礎を幅広く会得する。

2年生3Q 4Qにおいては様々な実習（森林調査実習Ⅰ、Ⅱ、樹木形態解剖学実験、基礎有機化学実験、基礎計測学実験）を履修することによって、専門領域に関して幅広く学び、3年生1Q 2Qでは、詳細な学問分野に特化した科目（森林化学Ⅰ、Ⅱ、森林資源管理学Ⅰ、Ⅱ、森林計画学Ⅰ、Ⅱ、林政策学Ⅰ、Ⅱ、造林学Ⅰ、Ⅱ、植物代謝制御学Ⅰ、Ⅱ、木質材料工学Ⅰ、Ⅱ、バイオマテリアル科学Ⅰ、Ⅱ、環境生物学Ⅰ、Ⅱ、生体分子化学、環境熱力学、森林生物学、高分子材料学、森林保全学、森林砂防学、森林水文・水資源学等）について学修を行い、Q3では、それら知識の深化の為の実習や集中講義を中心に実施する。各授業科目を通して習得された知識・能力の体系化を、実習や演習（森林計画学実習、森林政策学実習、森林機能制御学演習、樹木学、森林砂防測量学Ⅰ）、演習林を利用した実習（北方圏管理学実習、山地森林管理学）において図る。Q4では、配属された各研究室での活動とともに、問題解決能力及び問題発見能力を鍛える（木材流通学、景観管理学、森林資源・山村経済学Ⅰ、Ⅱ、森林機能開発学実験、生物材料機能学実験、森林資源科学モニタリング論、森林砂防測量学Ⅱ、森林砂防測量学実習等）。4年生では専門的・汎用的な専門技能の養成を卒業論文において図り、実践的な英語活用を科学英語で行う。またQ3では、森林の多面的機能について生態水文学実習で学ぶ。

自然科学、特に地球森林科学における幅広い学問分野における諸問題の解決法や実社会との関連を視野にいたした講義、実習を基盤として、大学院連携科目ではそれらを発展的に考える大学院コア科目の内、特に将来的に必要と思われる科目の修得を推奨する。

<継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）>

カリキュラムは二つの分節に区分して運用する、第1分節（1年～3年1Q2Q）は基盤的な学びの姿勢と知識・理解を修得する「導入・基礎」期、第2分節（3年3Q4Q～4年）は知識・理解の統合と新しい知識の創出に取り組む「発展・統合」期と位置づける。当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、第1分節と第2分節の終盤

に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果を各教員にフィードバックすると同時に、その結果に基づいて授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善について「カリキュラム検討委員会（コース教員で構成）」において検討し、必要に応じてシラバス内容の修正を図る。同時に、カリキュラム・ポリシーにそった体系的な積み上げ学修が出来ているかを検討し、新たな科目設定も含めて、科目の配置を提案することで、教学マネジメントを推進する。カリキュラム検討委員会にて検討した結果は、部局の「学部教育評価委員会（学務委員会委員で構成）」に提出し、査定を受ける。

《アセスメント・プラン》

・アセスメントⅠ（3年2Q終了時）「導入・基礎」期の評価：3年2Qまでの必修科目、選択必修科目、選択科目等の学修目標に対応する「知識・理解」の修得について、単位取得状況、GPA、学生の自己評価結果、および授業評価報告書に基づいてアセスメントⅠ（別紙）の項目について検証する。評価はMoodleの利用を前提とする。

・アセスメントⅡ（卒業研究において実施）「発展・統合」期の評価：4年間の学びの集大成としての「卒業研究」の審査を、共通ルーブリックに基づいて実施する。また、卒業研究発表後の学生の自己評価（3年3Q、4Qの講義・実習評価を含む）を行う。これらの結果を照合して学生に不足している知識・能力、特にディプロマ・ポリシー「C-1. 専門的能力」および「C-2. 統合・創造能力」について、不足している部分を抽出する。これらを総合して、アセスメントⅡ（別紙）の項目について検証する。

3. 新アドミッション・ポリシー

<p>求める学生像</p>	<p>国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様な視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。</p> <p>農学部では、生物生産、生物機能、生物環境等の学問分野において専門性及び技術を習得し、課題解決能力と国際的視野を併せ持つ人材を育成することを主眼とした教育を行っている。そのために、農学部では以下のような学生を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物生産、生物機能、生物環境等の農学関連分野に強い関心を有し、将来これらの分野で活躍を目指す意欲的な学生を求めている。 ・農学部の教育・研究は、自然科学から社会科学にまで及ぶ広範な基礎科学と応用科学に立脚しているので、幅広い教養と専門的知識をと
---------------	--

	<p>もに修学できるバランス感覚を備えた学生を求めている。</p> <p>・国際的に活躍する土台となる高度な語学能力を持ち、自己の語学能力の向上に熱心な学生を求めている。</p>
入学者選抜方法との関係	<p>①知識・技能：高等学校等における基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能。特に、大学での生物、化学、物理等の学習に必要な理系科目の十分な素養と基本的な英語力。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力：多面的に考え、客観的に批判し、自分の言葉で人に伝える資質。特に物事を理論的に把握する能力。</p> <p>③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度：生物生産、生物機能、生物環境等の農学関連分野への強い関心。多様性を尊重する態度、異なる考えに共感する寛容性。他人の意見を尊重しつつも積極的に議論する姿勢。</p>
入学者選抜方法との関係	「選抜方法に関する別表」参照

選抜方法に関する別表

	① 知識・技能	② 思考力・判断力・表現力等の能力	③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜	大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査	調査書
総合型選抜	大学入学共通テスト	小論文 個人面接	志望理由書 個人面接 調査書
国際型選抜	大学入学共通テスト 統一試験（EJU, SAT, GCE等）	個人面接	志望理由書 個人面接